

東白の松風

公立学校退職校長会東白川支部
発行責任者 古張金一
◆創刊 平成2年8月1日

【巻頭言】 「迫りくる課題に対応するために」



支部長 古張 金一

暖冬予想が、厳寒の冬となり、円安、物価高騰の平成7年度もまもなく終了となります。我々高齢者にとっては、厳しい1年となりました。とりわけ、活躍された先輩の会員方のご逝去は、誠に残念なことであります。謹んで哀悼の意を表したいと思えます。

県の支部長会が昨年11月に吾妻学習センター2階研修室で開催されました。初めに、県の広報部長二瓶先生より、60年の歩みの「60周年記念誌」完成の報告がありました。各県内の教育長さまにも届けることとなります。

会長あいさつでは、福士寛樹会長が、会津大会への御礼や教員の不祥事等について語られました。特に教員採用試験受験者の減少についての対応として、福大で講話し、2年生は、ほぼ教員志望であり、4年生になると教育実習での指導案を繰り返し書き直すことで負担を感じていることなどあり、学校の対応に課題もあることなど危惧されていました。

しかし、福島大学の教育学部の復活は、希望が持てるとのことでした。また、全退連会議は、スムーズに進みましたが、山口県が解散。東北は青森県が退会し、役員のなり手不足が影響し、深刻であることを指摘されました。また、県大会の開催については隔年開催とすること等が提案されています。県全体では、入会者が50%ほどで、各支部のご努力をお願いしたいとのことでした。特に高校籍の入会者を確保したいとのことでありました。

東白川支部におきましても会員の減少は、喫緊の課題です。本会の4つのクラブの運営につきましても、困難な状況です、事業の見直しや新たな課題への対応と大変な時期であります。そのような状況ではありますが、学校支援ボランティアやクラブ活動や賀詞表彰等の活動が行われています。ボランティア活動については、現場の校長先生方から、感謝されています。会員の皆様方には、本会の発展のために、活動の広報や情報収集にご尽力いただけますようお願い申し上げます。本年度会員の皆様方のご支援により事業を実施できましたことに深く感謝申し上げます。



《 令和8年度総会 》

※ 下記のように予定されています。

- 日時… 4月18日(土) 10:00~14:00
- 場所… 新富家会館 (棚倉町南町 Ⅷ 33-4147)
- 日程



9:30	10:00	10:50	11:00	11:50	12:10	12:15	14:00
受付	総会 (50分)	休憩	研修会 (50分)	クラブ打合せ (20分)	移動	懇親会 (105分)	

～学校紹介～ 「ふるさと学び舎・高野」

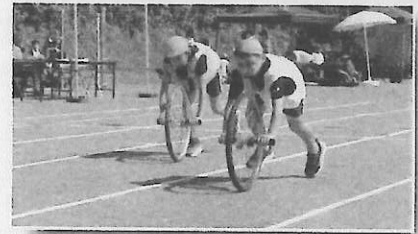
棚倉町立高野小学校長 藤田 篤



明治6年に高野小学校が歩み始め、152年を迎えた今年度末に閉校となります。

校長としての任期は閉校を迎えた今年度の1年間だけでしたが、私にとっては小学校6年間を過ごした思い出深い母校でもあります。校舎は、現在の山際（仙石）地区ではなく、強梨（大石）地区にありました。上と下の2段に分かれた特徴的な校庭で友だちと暗くなるまで遊んだり、戸中分校まで自転車で冒険したりしたことなどを思い出します。また、現在校舎があるこの場所は、ソフトボールの練習場所になっていました。練習の合間に飲む湧き水や食べた夏野菜がとてもおいしく感じられたことを覚えています。

小学校を卒業してから48年後、高野小学校の校長として赴任すると、「おらが学校」として支援する地域の方々の熱い思い、地域の人材・自然や歴史を生かした深い学び、自己肯定感や役割意識を醸成するために一体となる教師や保護者のかかわりがありました。今思うと、子どもの頃から確かに地域の方々の支えが生活に溶け込んでいたような気がします。そして、多くの先輩方が高野のよさを見いだし、地域と一体となってふるさとへの愛着や誇り、生きる力を育ててきた教育の成果が今まで続いてきたのだとあらためて感じさせられました。それができることは高野の強みでもあり、誇りであると同時に、それを創りあげた歴代の校長先生や教職員、地域、保護者の方々に深く感謝いたします。



< 「復活！高野競輪！」 >

クラブ活動報告

～部員の皆様の活動の様子や想い～

【園芸クラブ】 「園芸クラブを振り返って」 部長 生方 和廣

私、この度、誠に残念ながら創設以来19年間経つ園芸クラブを自分の健康上の理由により退任するに至りました。申し訳ありません。長い間大変お世話さまになりました。

思えばこの19年間、皆様方には温かいご厚情をいただき、感無量のものがございます。園芸クラブ講座回数は通算150回、チリも積もれば山となるとはこのことかと自分ながら驚いております。園芸クラブで用いた講座資料は驚くことに一人当たり100枚、分厚いものとなっております。皆様方とのご厚誼もまた年を重ねるごとに厚く濃いものとなりました。これはまさに宝の山でございます。活動日の一コマ一コマは、私にとっては贅沢な至福のひとつときでありました。あらためて素晴らしい皆様方に御礼を申し上げます。

日野原重明先生は「幸せとは何か」のエッセイの中で、「夢や希望を求めてやまない人は幸福である」と言っております。野菜や花を育てる園芸クラブは誠に未来志向であり、いわば夢や希望の塊でございました。クラブの目標は当然のことながら「充実した家庭菜園づくり」です。収穫の日を夢みて作物の生長に一喜一憂する。これは大変な魅力です。さらに大きな目標に「健康長寿」を掲げました。

①栽培を通して夢と希望を体感する。【心】②農作業を通して若々しい自分をつくる。【運動】③野菜を豊富に食べ老化を食い止める。【栄養】④収穫物を他人に贈るときの笑顔と真心の混じり合い。【絆】⑤退職校長会としての交流の場【社会参加】まさに園芸は趣味の王様といわれる所以です。そして園芸クラブもまた〇〇〇〇の王ではないかと自負しております。私たちの活動は「生きがい活動」でありました。



皆様方本当に長い間お世話さまになりました。万感の情をもって御礼の言葉を申し上げます。

【東南クラブ】 「いご麻雀 挑戦者求む」**矢吹 政徳**

今年度はこれまでの会場から新たな会場へと変更いたしました。長く会場を提供していただき本当にありがとうございました。飲み物や昼食の世話をしていただき何かとご迷惑をおかけしました。新たな会場ではできるだけ迷惑をかけないように心がけていきたいと思っております。1回目は6月に、2回目は10月に予定通り開催しました。楽しい時間は速いものです。半荘4回をこなすのが精一杯です。3回目は3月の暖かくなってきたころに開催予定です。

現在5名ぎりぎりです。もう少しメンバーの余裕が欲しいところです。基本は健康マージャンですので、脳を働かせ、指を動かし、声を出し、適度の緊張と興奮を味わうことができます。認知症予防には最適の趣味です。挑戦してみませんか。丁寧に優しく、手取り足取りお教えいたしますよ。

【ゴルフクラブ】 「ゴルフクラブの活動を振り返って」**佐藤 勝久**

今年度のゴルフクラブ（楽打歩会）の活動は、白河国際CCを会場に5月から11月までの間に5回の競技会を実施することができました。会員数は12名ですが、競技会を平日開催としているために、仕事や各自の都合などで欠席者があり、毎回6～8名程度の参加者でプレーし親睦を深めました。競技のルールは、優勝者や上位入賞者が固定しないように、楽打歩会独自のハンディキャップ方式で実施しているため、毎回違った人が優勝をしていて、盛り上がりのある競技会となりました。また、面川春男部長さんの手づくりの賞状や通算100回を迎えたのを機に新調した優勝カップの授与があり、今までよりも競技会らしくなりました。

ゴルフはミスをするスポーツで、バンカーやグリーン上での大叩き、池ポチャなどで頭を抱えてしまうことがよくあります。しかし、たまに出現するナイスショットやロングパットが入った時の喜びが心地よく、快感となって再挑戦させます。また、広々とした緑の中で、年齢や性別、技術のレベルを問わず楽しむことができます。興味のある方は、クラブを握ってみませんか

【山野草クラブ】 「花は心を癒します」**吉田 信也**

令和7年7月9日、梅雨の晴れ間に今年度の研修に出かけました。まずは、ジュピアランドひらたを訪れました。山の斜面に825種、約28,000本のアジサイが咲き誇る圧巻の眺めでした。変わり種のアジサイに興味を惹かれましたが、苗の購入ができなかったことが残念でした。また、ゆり園も開設してあって、多種多様なゆりの花を鑑賞することができました。会場にはゴルフカートが準備され、広い園内をスムーズに見て回ることができ、熱中症対策には万全でした。

後半は、三春ハーブガーデンに立ち寄り、山野草ばかりでなく、さまざまな植物に触れました。私は山野草の「さ」の字も知らない素人ですが、植物を見たり触れたりすることで心穏やかになるような気持ちになりました。とても有意義な一日でした。



令和7年度のボランティア活動報告

「みなさんのご協力に感謝します」 ボランティア担当 根本 秀一

平成21年度に「学校支援ボランティアバンク」を組織し、あらためて地域の子どもの役に立とうと活動が始まってから今年度で17年目となり、とても息の長い、そして他の支部に例を見ない独自の活動となっています。今年度は、昨年度に比べ、依頼する学校・園が増え、学習指導の他、各種コンクール等の審査、イベント運営補助などの要請をいただき、延べ113名の支部のみなさんに協力していただきました。子ども達の笑顔や、先生方の感謝の言葉に、本支部の取組が学校・園など、そして子ども達の役に立っている素晴らしい活動であることを実感しています。かつて、もっと時間と人手があれば助けがあげられる、伸ばしてあげられる子どもがたくさんいるのに、と感じたものでした。依頼が増加傾向にある中、対応できる人員に限りがあるという課題はありますが、引き続きお力をいただければ大変ありがたく思っております。今後もみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。



祝賀詞

<星 仁子 先生>

88歳

昭和13年1月14日生

星先生の誕生日に、古張支部長をはじめ役員4名で訪問させていただきました。旦那様の輝明先生とともにお迎えいただき、賀詞を伝達いたしました。

星先生は父の仕事の関係で横浜で生まれましたが、戦争中に父の実家の笹原に戻ったそうです。茨城大学を卒業後、双葉郡葛尾小を振り出しに、その後母校の笹原小、塙小、下関河内小、棚倉小、教頭として常豊小、近津小、校長として青生野小、高城小にご勤務されました。先生に思い出をお聞きしたところ、当時の笹原小は恩師が校長で分校が3つあり、4年生から本校にきたこと。学力テストの結果がよかったので、校長から褒められたこと。塙小時代は、台宿分室に1年間勤務してから、現在の場所に移ったばかりの新校舎に移り、当時は校庭に石がたくさん転がっており、毎日石拾いをしたこと。校内ソフトボール大会で優勝したこと。新任校長として青生野小に勤務した際には、村内小学校ソフトボール大会で優勝したこと。退職してからも困ったことがあると、教え子たちが来てくれて解決してくれること。一番の思い出は、塙小時代、昭和49年に文部省派遣海外教育事情視察に各県から1名ずつ派遣され、アメリカ、ヨーロッパの視察に参加し、各国の教育事情を実際に見ることができたこと等、たくさんエピソードをお聞かせいただき、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

これからも長い教職経験で培った経験を、本支部のためにお聞かせくださいますようお願いいたします。今後、ますますご健勝でお過ごしくくださいますようご祈念申し上げます。



本会会員

松本 喜男 氏 (85歳) が、
1月20日に、ご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

編集後記

原稿の執筆、大変ありがとうございました。
令和7年度がもう終わりとなり、月日が経つのがとても早く感じられます。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。(西牧・吉田)